

# 事務事業説明シート

事業No. 1

①事務事業名	再生資源集団回収奨励金交付事業								
②所管課	市民環境部 廃棄物対策課								
③ 施策の背景	事業の背景・目的	生活環境の保全とごみの減量化及び資源の有効利用を図る。							
	受益者	集団回収実施団体							
	目標 (アウトカム目標)	目 標	リサイクル率 40%以上				達成期限	2021年度	
	計画	後期実行計画			×	まち・ひと・しごと創生総合戦略		×	
④ 事業説明	事業の概要	ごみの減量化及び資源の有効利用を図るため、家庭から排出される古紙・古繊維類・金属類・空きびん類を集団回収をした子ども会などの地区推進団体に、奨励金を交付する。							
	事業内容 (具体的な手段・手法・業務)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 集団回収実施後に実施団体から提出された申請書の受付を行い、奨励金の交付手続きを行う。交付確定後に交付通知書を発送する。</li> <li>・ 市民に奨励金制度と実施手順等を周知し、集団回収の取組促進を行う。</li> </ul>							
⑤ 投入資源	事業費・人件費	事業費				人的資源 (参考：正規職員1人/年≒804万円/年)			
		H27(実績)	H28(実績)	H29(実績)	H30(見込)	H27(実績)	H28(実績)	H29(実績)	H30(見込)
		9,967千円	9,057千円	8,105千円	7,905千円	正規0.3人/年	正規0.3人/年	正規0.3人/年	正規0.3人/年
⑥ 事業効果	アウトプット (活動実績)				アウトカム (活動成果)				
	指標：集団回収の量、団体数、延べ実施回数				指標：リサイクル率				
	H27(実績)	H28(実績)	H29(実績)	H30(見込)	H27(実績)	H28(実績)	H29(実績)	H30(見込)	
	回収量 1,993 t	回収量 1,811 t	回収量 1,621 t	回収量 1,600 t	28.7%	29.7%	30.0%	32.0%	
	団体数 311団体	団体数 294団体	団体数 291団体	団体数 292団体					
延べ回数 2,317回	延べ回数 2,396回	延べ回数 2,317回	延べ回数 2,300回						

⑦ 自己点検結果	A 必要性			B 有効性			C 効率性		
	A-1.事業の目的は市民や社会のニーズを的確に反映しているか	A-2.民間団体等にゆだねることができないか (○:行政が行うべき、△:一部民間、×:民間で行うべき)	A-3.背景・目的・目標の達成手段として必要かつ適切な事業か	B-1.事業内容は背景・目的に即したものであるか	B-2.活動実績は活動成果に大きく貢献するものとなっているか	B-3.活動成果は目標達成に向け、計画どおり推移しているか	C-1.投入資源に見合ったアウトプットを生み出しているか	C-2.事業手法について、考えられる他の手法より、高効率または低コストか	C-3.その他、コスト削減や効率化に向けて適切に取り組んでいるか
	A-1 ○	A-2 △	A-3 ○	B-1 ○	B-2 ○	B-3 △	C-1 ○	C-2 △	C-3 △
	評価基準								
⑧ これからの見直し	A 必要性			B 有効性			C 効率性		
	A-1 ○ 十分できている △ 一部できている × (あまり) できていない — 事業に該当しない評価項目 A-2 ○ 行政が行うべき事業である △ 一部民間にゆだねることができる × (基本的に) 民間にゆだねることができる A-3 ○ 必要かつ適切な業務である △ 必要ではあるが、事業の代替を検討すべき × 必ずしも必要とはいえない — 事業に該当しない評価項目			B-1 ○ 十分即している △ 一部即している × (あまり) 即していない — 事業に該当しない評価項目 B-2 ○ 実績は成果に大きく貢献する △ 貢献する × 若干貢献する、または(あまり)貢献しない — 事業に該当しない評価項目 B-3 ○ 計画どおり(計画値の100%以上) △ ほぼ計画どおり(計画値の80%~99%) × 計画どおりとは言えない(計画値の80%未満) — 事業に該当しない評価項目			C-1 ○ コストパフォーマンスは高い △ コストパフォーマンスは若干低い × コストパフォーマンスが低い — 事業に該当しない評価項目 C-2 ○ 他の手法より、高効率・低コスト △ (たぶん) 高効率・低コスト × 高効率・低コストと言えない — 事業に該当しない評価項目 C-3 ○ 定期的にコスト削減・効率化に取り組んでいる △ 過去に取り組んだことがある × 取り組んだことはない		
	見直しの方向性			より効率的・効果的な事業実施を目指して継続					
	<p>本事業の促進は、ごみの焼却などの中間処理量及びごみ処理経費の削減につながることから、今後も他の3R事業とあわせて実施していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○本事業と地域におけるコミュニティビジネスとして展開するための支援</li> <li>○事業所排出分の受け入れについても制度設計を行う</li> </ul>								